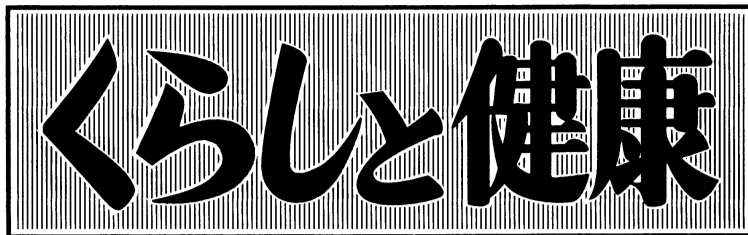


代々木病院の理念

ヒューマニズムにもとづく医療・介護の実践



Publication info: No. 684, 10月号, 2024年, 1部60円, 発行 東京勤労者医療会代々木病院, 院長 河邊 博正, 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-30-7, TEL 03(3404)7661, http://www.tokyo-kinikai.com/yoyogi

10月から変わる!

「先発医薬品処方」を希望されるとききの注意

医薬品の自己負担が新たな制度に

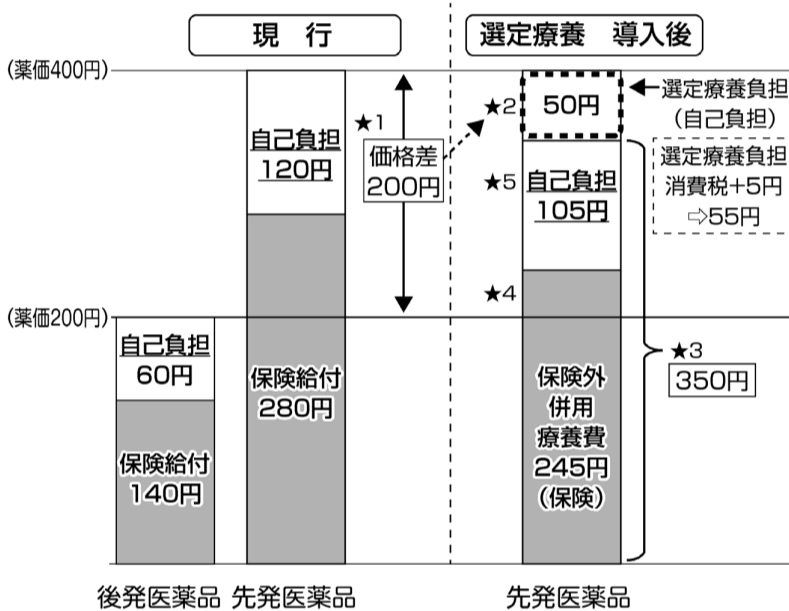
代々木病院 院内薬局

薬局長 中嶋淑枝

診療報酬改定により、10月1日より医薬品の自己負担が新たな制度になります。その内容は、「後発医薬品(ジェネリック医薬品)があるお薬で、先発医薬品の処方希望された場合は、特別料金(※1選定療養負担)をお支払いいただきます」というものです。後発医薬品とは、先発医薬品と有効成分が同じで、同じように使ってもらえるお薬です。今回

★保険給付と選定療養の負担について

- 【事例】
・3割負担の患者さんが選定療養費を利用したケース
・先発医薬品の薬価:400円、後発医薬品の中で一番高い薬価:200円



【事例の解説】

- ①選定療養費として負担いただく範囲は、先発医薬品の薬価(400円)と後発医薬品の一番高い薬価(200円)の価格差(上図★1:200円)を算出します。
②このうち、4分の1(★2:50円)が選定療養の負担として、患者さんが負担することになります。
③先発医薬品(400円)のうち、①で選定療養の負担となった額(50円)を差し引いた額(★3:350円)が保険給付の対象範囲となり、その内、7割(★4:245円)が保険外併用療養費として支払われます。
④患者さんが負担する合計金額は、[選定療養費の負担(★2:50円)+選定療養費に係る消費税(5円)+保険給付の自己負担(★5:105円)]=160円となります。

- Q1 特別料金の支払いが除外されるのはどんな時?
A1 医師が医療上必要と認められた時、薬局薬剤師が剤形など調剤上必要と認められた時、調剤薬局において後発医薬品の入手が困難な時など、これらの場合には先発医薬品であっても、今まで通りのお支払いとなります。
Q2 先発医薬品の方が飲みやすいという理由で患者さんが希望するときは?
A2 特別料金のお支払いとなります。
Q3 医師が医療上必要と認めるときはどんな時?
A3 ①先発医薬品と後発医薬品とで承認されたときに、効能・効果に差異があり治療の上で先発医薬品が望ましいと医師が判断したとき
②患者さんが、以前に後発医薬品を使用した際に副作用が発生している場合や、他の医薬品との飲み合わせによる相互作用など安全面で先発品が望ましい、と医師が判断した場合

と認めるときはどんな時?
薬品へ切り替えない方が望ましいといわれている医薬品の場合
④後発医薬品の剤形では飲みにくい、吸湿性で一包化できないなど、剤形上の違いで医療上必要と医師が判断した場合。
代々木病院では以前から外来で一般名処方を進め、後発医薬品が処方されやすい状況を作ってきました。薬を長期的に処方されている方は、自分の薬は何のために飲んでいるのか関心をもっていただき、主治医や薬剤師と薬や症状について話し合い、費用も含め治療に参加するとより良い医療になると思います。
今回の選定療養の導入は投薬という診療行為の中核をなす部分にかかるもので、貧富の格差が医療格差につながる恐れがあります。薬剤師の保険給付にまで差額を持ち込むことは、国民皆保険制度を崩すことにつながりかねない懸念もあり、今後とも注意が必要です。

「絶対に負ける」絶対には負けない。たかいたか、そこにはある。サッカーI-W杯最終予選が始まりました。予選突破の可能性は100%。そこにはギリギリで予選を通過できるようなスリルと興奮はありません。楽しむためには「立ち位置」の変更が必要です。▼では日本の「経済」はどうでしょうか。こちらも「立ち位置」の変更が必要です。物価はコロナウイルス5類変更あたりから急速に上昇、水光熱費にいたっては、今年度の予備費のほぼ全額を使って再度補助が始まるそうです。一方で実質賃金は直近2年ほど下降が続いています。為替レートのパワーバランスが大きく変わりは海外旅行などは金銭的にかなり難しくなりました。▼そんな経済状況のもとで、テレビ番組では年収ウン千万円のタレントさんを起用し「節約」や「格安」を求め、贅美するよさな番組ばかりになってしまいました。九〇年代バブルのような番組が健全というわけではありませんが、一種の世論誘導かと勘繰ってしまうのは私だけでしょうか。▼そのうち彼らのいうことが「ほしがりません。勝つまでは」と変わっていくのか心配です。(て)

千駄の萱

「絶対に負ける」絶対には負けない。たかいたか、そこにはある。サッカーI-W杯最終予選が始まりました。予選突破の可能性は100%。そこにはギリギリで予選を通過できるようなスリルと興奮はありません。楽しむためには「立ち位置」の変更が必要です。▼では日本の「経済」はどうでしょうか。こちらも「立ち位置」の変更が必要です。物価はコロナウイルス5類変更あたりから急速に上昇、水光熱費にいたっては、今年度の予備費のほぼ全額を使って再度補助が始まるそうです。一方で実質賃金は直近2年ほど下降が続いています。為替レートのパワーバランスが大きく変わりは海外旅行などは金銭的にかなり難しくなりました。▼そんな経済状況のもとで、テレビ番組では年収ウン千万円のタレントさんを起用し「節約」や「格安」を求め、贅美するよさな番組ばかりになってしまいました。九〇年代バブルのような番組が健全というわけではありませんが、一種の世論誘導かと勘繰ってしまうのは私だけでしょうか。▼そのうち彼らのいうことが「ほしがりません。勝つまでは」と変わっていくのか心配です。(て)